



今西法律事務所
弁護士

今西 隆彦

検察官を志し、明治大学法学部法学科、日本大学大学院法務研究科を卒業。司法修習時に弁護士へと道を切り替え、横浜の法律事務所で2年ほど経験を積んだ後、2013年に「今西法律事務所」を立ち上げた。現在は神奈川県座間市を拠点にさまざまな案件を取り扱い、中でも少年事件の解決に力を注いでいる。

過ちから立ち直る人を全力で支援する 地域密着型の温かみある法律事務所

離婚や相続を中心に地域の法律問題を解決へ導いている「今西法律事務所」。弁護士の今西氏は、「自分を弁護士と思わない」というフラットな目線で、相談者に寄り添っている。積極的に取り扱う少年事件への思いも含めて、俳優の名高達男さんが話をうかがった。

Guest Comment>>



名高 達男 (俳優)

弁護士は、人生の重大局面を迎えた人たちに救いの手を差し伸べたり、他の当事者たちと調和を図ったりと、難しくも社会的意義が大きい職業だと思います。そんな中でも、決して肩肘張った感じを出さずに、いつも笑顔で落ち着いた感じの今西さんは相談者さんにとって非常に心強い存在でしょう。今後のさらなるご活躍を期待しております。

弁護士としてやりがいを感じるまで

名高 まずは、今西さんが法曹の世界を目指した経緯を教えてください。

今西 最初のきっかけは、小学生の時に友達と裁判のごっこ遊びをしていた時に、仲間から「君は裁判官が向いているんじゃない?」と言われたことでした。くだらない話ですが(笑)、どうもその言葉が耳に残っていて。その後、高校から大学に上がる頃に、はっきりと法曹界を意識するようになりました。しかし、実は当時目指していたのは弁護士ではなく検事だったんですよ。

名高 イメージ的には弁護士と検事は対極的な存在ですよね。どうして検事を志

望されていたのでしょうか?

今西 一言でいうと法律——特に刑事法の作成に携わりたいからです。立法は国会で行われますが、実際に法律の条文を書いているのは検事だと知っていたので、そこを目指してみよう、と。しかし、司法修習生だった時に教官から「君の成績では検事に推薦できない」と伝えられ、あえなく断念。残された道は弁護士しかなく、失礼ながら当時は「仕方なく」弁護士になったという感じでした。

名高 ご自身が思い描いていたものとは異なる道を歩まれながら、10年以上継続し、今はご自身の事務所も構えられています。心境の変化はありましたか?

今西 かつて私が刑事法の作成に携わり

たかったのは、「悪事を働いた人間はしっかり懲らしめなければならない」という考えに基づくものでした。しかし、弁護士は罪を犯した人の側に立つこともある仕事。名高さんがおっしゃる通り、その意味で検事とは対極的存在です。だからこそ弁護士になってしばらくの間は、刑事事件に携わることを避けていました。しかし、国選弁護人としてある少年事件の被告人を弁護した時に、少年が自身の犯した罪の重大さを少しずつ理解し、反省しようと心を入れ替えていく姿を見て、弁護士という仕事の重要性、やりがいを感じるようになったんです。

過ちを犯した人の再起を促す存在

名高 あらためて、今西法律事務所さんで取り扱っていらっしゃる案件について詳しく教えてください。

今西 よく相談をお寄せいただくのは、離婚問題や相続問題です。座間市内には他に法律相談ができる場所がないということもあり、ここが地域の皆様にとって身近な法律事務所であるように心がけています。また、少年事件についても積極的に取り扱っており、これまでに100件以上を担当してきました。

名高 刑事事件を避けていた時期もあった今西さんが、100件以上の少年事件に携わっていらっしゃるというのは、何だ

か感慨深いものがありますね。

今西 そうですね。これまでに担当した中には、私が法律家を志した時と同じぐらいの年齢の少年もいて、犯行に至る経緯や反省の言葉、今後の社会復帰に向けた希望などに耳を傾けるうちに、法律家としてできる範囲で、そういう子たちの社会復帰の支援をしたいという気持ちが強くなっていったんです。それに、少年たちと真剣に向き合っていると、自分が若返っていくような不思議な感覚もあって——名高さんも俳優をされていてそんな経験はありませんか?

名高 若い共演者さんと話をしていて、こちらが助言しているつもりが、いつの間にか心の中で自分が励まされている感覚になることはありますね。

今西 それと似た感じかもしれません。事件を起こした本人は大変な状況ですが、罪を償い前へ進もうとしている姿を見て、勇気づけられるというか……。私は、少年・少女たちのやり直しの可能性を信じて、更生までを支えていく存在でありたいと思っています。

「自分を弁護士だと思わない」スタイル

名高 お話をうかがっていて、今西さんからは人間的な温かみを感じますし、良い意味で今までにお会いした弁護士さんとは異なる雰囲気をお持ちです。相談者

さんと接するうえで、心がけていらっしゃることは何かありますか?

今西 相談に応じる際には、自分のことを弁護士だと思わないようにしていますね。弁護士の役目は、社会正義と法に則って事件を解決へ導いていくことですが、相談者様に寄り添い、なるべく良い結果になるよう尽くすという点ではサービスの側面もあります。たいていの方は、法律相談は初めてで緊張されていますから、何でも気軽にお話ししていただけるような雰囲気づくりをしつつ、プロの法律家として誤った主張はさせないように舵取りをしている感じですね。

名高 そんな今西さんのもとには、この先もたくさんの方が助けを求めて相談に訪れることと思います。今後のビジョンについてもお聞かせください。

今西 今は正直、毎日を生きることに一生懸命なので、あまり先のことまでは考えられませんが、これからも一つひとつの案件と丁寧に向き合いながら、地域の皆様のお役に立つことができれば幸いです。また、私の父が横浜で長年にわたり小さい会社を営んでいるので、家業を入り口として、ゆくゆくは中小企業経営の法務サポートも手がけられればと考えています。経営者の方は日々の仕事に追われてなかなか法務まで手が回らないでしょうから、そういう方はぜひ、私を頼っていただきたいですね。

Company Data>>

今西法律事務所

〒252-0011

神奈川県座間市相武台1-38-3

URL <https://imanishi-lawoffice.jp/>

